

## 学校教育計画 (平成28年度～平成31年度)

学校名	相模原総合高等学校	課程・学科 教育部門・学部	全日制の課程総合学科
-----	-----------	------------------	------------

### 1 学校のミッション

○ 全日制総合学科の高校として、生徒一人ひとりの学習や進路等の目標の実現に応えるため、単位制の利点を生かした年次進行を基調としたカリキュラム・マネジメントに学校全体で取り組み、学力の育成、豊かな人間性や社会性を培い、社会的・職業的に自立することをめざした学校づくりに取り組む。

教育課程については、共通科目・科目及び専門教科・科目にわたる多様な科目の中から生徒が主体的に履修したい科目を選択でき、興味・関心や進路希望等に応じた学習を可能にするという特質を生かし、「系列」に応じた系統性のある学習の確保に基づいて編成を行う。

○ これまで、自分の力で「夢」を開拓することを教育目標として、生徒の様々なニーズを把握し、幅広い柔軟な教育活動を展開することにより、生徒一人ひとりの個性を伸ばす教育に取り組んできたが、今後はさらに、授業内容や授業方法の工夫により生徒が主体的に学ぶ意欲を高めることをめざした不断の授業改善を実施する等、教育活動の充実に取り組む。また、平成28、29、30年度の3年間「プログラミング教育」研究推進校として研究開発に取り組む、その成果を地域の県立高校に様々な機会を設けて普及する。

### 2 学校教育目標

- 生徒一人ひとりの資質の啓発と向上を図り、「社会に有為な人材」を輩出する。
- 生徒の多種・多様なニーズを把握し、幅広い柔軟な教育展開を図ることにより、一人ひとりの個性を伸ばす。
- 知・心・体の調和とたくましさをも身につけた豊かな人間性と望ましい社会性を涵養する。
- 家庭や地域との協働・連携を推進し、外部教育力の活用も含めた幅広い教育活動を展開する。
- 安全・安心な教育環境の整備と教育活動の充実・改善に弛まぬ努力を重ね、信頼される学校づくりを進める。

### 3 計画作成時点での課題※「4年間の目標」と主な方策の根拠となるように記載する。以下例示のまま

- 生徒の家庭における学習時間は、部活動加入者・未加入者を問わず30分未満が最も多く、予習や復習を含め主体的に学ぶ意欲に課題が見られる。
- 平成27年度後期の生徒による授業評価の項目4(「授業中、生徒同士で話し合う機会や意見などを発表する機会がある」)について、「4 かなり当てはまる」の回答割合(学校全体75%)を引き上げるように生徒の活動をさらに取り入れた授業改善に取り組む。
- 部活動の加入率を80%程度まで高め、部活動の活性化を図る。
- 上級学校への進学者のうち、推薦で進学するケースがほとんどである。進学後不適応で、進路変更をした者も見られるため、本人、保護者への十分な指導が必要である。(全進学者の中で、推薦で進学する者の割合は75%である。)
- 生徒等に関する情報共有、外部機関との連携を充実させ、生徒一人ひとりに対応する教育相談体制を確立させる。
- 事故防止会議においてグループリーダーが中心となり意識啓発を図り、事故防止への適時適切な取り組みを徹底する。
- 共通教科「情報」の科目「情報の科学」を設置してプログラミング教育を実践するとともに、指導内容や方法等を研究開発し、その成果の普及を図る。

#### 4 4年間の目標と主な方策

	視点	4年間の目標	目標達成に向けた主な方策
1	教育課程 学習指導	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒の学習意欲を向上させ、（主体的な選択による学習とキャリア教育を通じて、将来の職業選択を視野に入れた、）自己の進路への自覚を深める教育課程編成や組織的な授業改善に取り組む。また、「プログラミング教育」研究推進校として研究開発に取り組む。</li> <li>・学校行事や生徒会活動等を充実させ、生徒が自ら学び、自ら考え、行動する意欲の促進を図る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・小・中・高が連携し、アクティブ・ラーニングの視点を踏まえた授業の教員研修会の実施及び生徒参加型授業の充実を図る。また、「プログラミング教育」を教科「情報」から導入し、「全教科」に波及させる。</li> <li>・「総合的な学習の時間」「産業社会と人間」「課題研究」の学習内容をさらに充実させ、探究活動に取り組む。</li> </ul>
2	(幼児・児童・) 生徒指導・支援	<ul style="list-style-type: none"> <li>・部活動の活性化を通して、責任感や連帯感の涵養を図る。</li> <li>・生徒一人ひとりの個に応じた支援体制の充実を図るとともに学校規律を継続させる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・年に複数回の部活動未加入者対象の入部相談会を開催する。</li> <li>・支援教育についての理解を深め、生徒一人ひとりのニーズを把握、共有化して支援し、チームとして生徒指導に当たる。</li> </ul>
3	進路指導・支援	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒が自らのキャリア発達を意識できる進路指導の充実を図る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・インターンシップの取組の充実を図る。</li> <li>・実力判定テスト・基礎力診断テストの結果分析等により三者面談等の充実を図る。</li> </ul>
4	地域等との協働	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域との協働を推進し、地域に信頼される学校づくりを進める。</li> <li>・「プログラミング教育研究推進校」として、コンソーシアムを活用した研究開発に取り組む。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒の自己肯定感の向上につながる地域との取組を進める。</li> <li>・「プログラミング教育研究」のため、民間企業、大学、専門学校との協働研究に取り組む。</li> </ul>
5	学校管理 学校運営	<ul style="list-style-type: none"> <li>・すべての職員が県立高校改革の実施を踏まえ、変化に迅速に対応し、前向きに課題に取り組む学校体制を構築する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・組織的授業改善やコミュニティ・スクールなどに関する校内研修会を開催する。</li> <li>・グループが主体となった事故防止会議を年10回以上開催する。</li> </ul>